

# 玉垂

たまだれ  
No.13



初甲子祭「御本殿廻りの神事」

<http://www.okunijinja.jp/>

御挨拶



奉祝

平成十七年御鎮座千四百五拾年

小國神社宮司 打田 文博

つい先日新年を迎えたと思っていましたら早三月、時の流れのスピードばかりを実感する毎日です。氏子・崇敬者の皆様には、充実した日々をお過ごしのことと拝察申し上げます。

何かと明るい話題の少ない昨今ですが、本年は紀宮清子内親王殿下の御成婚の年、心からお祝い申し上げたいと存じます。

昨年は内外ともに数多くの天災にみまわれました。中でも中越地震により罹災された多くのお社と氏子の皆さん、またインド洋沿岸諸国の津波による被害に合われた方々には衷心よりお見舞い申し上げます。当社では、お陰様で特に被害はなく安堵致しましたが、自然災害の恐ろしさをあらためて痛感し、同時に東海地震に対する不安も一層強まった一年でありました。

一方、世相はと言えば「家族間の殺人」や「少年犯罪」およそ人間の仕業とは思えないような「残虐な事件」が多発し、そこには人としての理性などかけらもなく、何か人間は悪い方向に進化しているように思えてなりません。特に子供の犯罪については早急に手を打たねばなりません。時あたかも国政の場で、教育基本法の改正や「ゆとり教育」の見直しが政治日程に上がり、活発な動きが出てまいりました。勉強が出来ない事まで個性と大人がはき違えたり、「個性の尊重」と言う名の「個人主義」に走った結果、国家や伝統などの関わりについて、正しく理解出来ない等、人間形成の基本から遣り直し子供たちを救わなければなりません。一日も早い改正に期待したいと思えます。

さて平成十七年、小國神社は御鎮座「一四五〇年」の佳節を迎えました。また本年は日露戦争勝利百年、終戦六十一年の節目にあたります。このような節目の年は、さらなる飛躍のための年にしなくてはなりません。

当社では、一四五〇年を奉祝し、ハード、ソフトの両面から様々な事業を展開し、大神様の一層の御加護を戴くべく努めてまいります。

平成17年 正月の点描



元旦の社頭

そこで昨年、小國神社崇敬の基礎となる「小國神社崇敬奉賛会」を設立し、会長には鈴木覺様に御就任賜りました。鈴木会長は浜松市に於て創業九十二年の老舗、鈴覺株式会社社長の社長であられ、また鈴木家は敬神の念篤く古くから小國神社をおささえたいただいたお家柄で、御母堂様は月参りを欠かしません。当社にとつて最も相応しい会長をいただき感謝に堪えない次第であります。

また、同時に記念事業の募財組織として、「小國神社御鎮座一四五〇年記念事業募財委員会」を設立し委員長に鈴木三千雄様（責任役員）に御就任いただきました。

このたびの記念事業の主なもの、「舞殿・舞楽舎のお屋根替え（檜皮葺）」と「斎館・参拝者休憩所の改築と社務所の移転」で、これらの事業は申すまでもなく小國神社の悠久の発展を願ひ次代につなぐ事業であります。各位の御理解と格別な御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、何方様にも大神様の御加護がいただけますよう御祈念申し上げます御挨拶と致します。



手鉞始神事（1月11日）



奉納の大絵馬



どんど焼（1月16日）



静岡県無形民俗文化財指定・田遊び神事（1月3日）

### 小國神社崇敬奉賛会

### 会長就任の御挨拶



会長  
鈴木 覺

平成十七年は遠江國一宮として古来より崇敬を集めておられます小國神社が、御鎮座一四五〇年という佳節を迎えられましたことは、御同慶の至りに存じます。

旧臘、弊社に打田宮司様がお訪ねいただき一四五〇年の記念事業の一環として、崇敬奉賛会を設立した旨のお話を伺い、さらに私に対し会長就任の御依頼がありました。

大変光栄な事とは存じながらも、その器ではない事も自覚いたしておりますが、宮司様からの強い御要請と先代からの深い御縁もあり、お引き受け致す事に致しました。ひとたび、お引き受けした以上は、諸先輩をはじめ崇敬者各位の御理解、御協力により、会長の責務を果たしてまいりたいと存じます。何卒、宜しくお願い申し上げます。さてこの度の記念事業は、崇

敬奉賛会の設立もさることながら、舞殿・社務所の改築など三期に亘り進められるわけですが、とりわけ参拝者休憩所の改築は、本会にとりましても大変ありがたい事業であります。

また、崇敬奉賛会の目的は、神社の発展に寄与することです。したがって、今般の記念事業に対する奉賛は、会の活動にもつともふさわしい事と存じます。

小國神社の悠久の歴史を考えます時、一四五〇年はあくまでも通過点に過ぎません。これまでも神社は、先人の篤い信仰と努力によって護持され、一方我々崇敬者は、神の御加護によって日々あることに感謝してきたのだと思います。私は、浮き沈みの絶えない経済界に身を置く一人でございますが、年に一度伊勢の神宮にも参拝させていただいております。そしてそのたびに、お参り出来た喜びと感謝の豊かな気持ちにひたれる一時があります。

時局は激動する世情ではございますが、氏子・崇敬者の皆様には、崇敬奉賛会の発展と、此度の記念事業に対します絶大な御力添えを賜りますようお願い申し上げます。

### 節分祭の斎行

二月三日(木)午後二時より節分祭を斎行致しました。

本年はアテネオリンピック女子レスリング五十五キロ級金メダリストの吉田沙保里選手をお招きし、年女役としてご奉仕いただきました。

大紋を身にまとい、九十四名の年男役・年女役の方々と共に、拝殿の外ばめを柳と梅の枝で作った筈でたく追儺神事や豆撒き神事に続き、年男役・年女役の弥栄を祈願する宝槌打振神事、大声で笑い厄災を祓う福笑い神事をこ奉仕されました。

祭典終了後の豆撒き式では、集まった大勢の参拝者からの歓声や声援に、笑顔で手を振ってお応えになり、また



豆撒き式終了後も参拝者と記念撮影に気軽に応じられるなど、そのお人柄が感じられました。



金メダリスト・吉田沙保里さん(右)



節分祭・豆撒き式(2月3日)

## 紀元節祭の斎行

二月十一日は、神武天皇が東征を成し遂げ御即位され國を治められた日で、全国の神社を始め各地で建国を記念する行事や式典が行われます。小國神社では午前八時三十分より氏子内各地区三ヶ所より子供会を中心に約三百名程が国旗を手に持ち横段幕を掲げて奉祝パレードが行われました。当日は、冷え込みも厳しく冷たい風が吹きつける中ではありましたが、子供達や参加者達は元氣よく神社に向けて歩きました。神社では拜殿にて紀元節祭が斎行され、祭典に参列後、拜殿前にて建国記念奉祝式典が行われました。また氏子青年会の奉仕による餅つきやビンゴゲームが催され、黄奈粉餅を口いっぱいにはうばる姿やゲームの景品を手に大喜ぶする姿などが見られ、楽しいひとときを過ごして建国の日をお祝いしました。



建国記念奉祝式典



奉祝 餅つき大会



静岡県議会 奥之山 隆 議長のご祝辞

## 初甲子祭の斎行

初甲子祭は毎年新暦の寒明け最初の「きのえね」の日に執り行われます。本年は二月九日に斎行され家内安全、商売繁昌、無病息災などを願う講社の講員を始め、敬神婦人会など多くの方々の参拝で賑わいました。

甲子は大國主命の御縁日として特に御霊顯あらたかな日とされ「願ひ事のままに叶う」と古くより言い伝えられ、初甲子祭の時だけ「御本殿廻り」の神事が行われます。午前中に数回行われ、拜殿で祭典に参列後、神職の先導に続き一年の無事を願う御本殿をひと廻りします。その後、縁起物の無事杉の授与や福引きなどが行われ、直会には神社で収穫した椎茸の炊き込みご飯や濁酒などが振舞われます。



御本殿前の参拝

## “お屋根替”の檜皮取りはじまる

舞殿・舞楽舎お屋根替え工事の檜皮採取作業が、兵庫県の職人大野豊氏（檜皮採取選定保存技術保持者）外三名にて本年一月初旬より始まりました。

今回の工事には延べ九トンの檜皮が必要であり境内木だけでは採取できないので、先例に倣い近隣の森町一宮に御鎮座する神明宮、また掛川市上垂木に御鎮座する雨櫻神社にもご協力をいただき採取いたします。

作業機械等を使用せず、カナメモチ製の「へら」を使用し根元より皮を剥ぎ、「ぶり綱」と呼ぶ十五m程のロープを使い木に登り、皮を剥いでいく根気のいる作業であります。熟練の技を必要とし、採取された皮は、加工職人の手により一枚一枚磨き上げられ、お屋根材として調製されます。本体工事は五月下旬より着工し、十一月中旬に竣工の予定であります。



檜皮の採取（境内・滝宮地内）



# 「秋の写真コンテスト」のご報告

平成十四年度より開催しました「秋の写真コンテスト」が三回目を迎えました。毎年、秋のイメージを様々な視点でとらえた多数の作品をお寄せいただいております。本年度も二一五名の皆様から六〇二枚の作品のご応募があり、去る二月八日に写真コンテスト実行委員会による最終審査会が開催され、満場一致で以下の通り各賞が決定しました。

- 最優秀賞 鈴木 康之 (金谷町)
- 優秀賞 富田 皐 (森 町)
- 優秀賞 渡辺 辰己 (金谷町)
- 特別賞 松浦 昌 (掛川市)
- 入 選 角田智恵子 (舞阪町)
- 入 選 相曾 雅晴 (浜松市)
- 入 選 鈴木 宗武 (掛川市)
- 入 選 井口 至郎 (袋井市)
- 入 選 小林 勤 (浜松市)
- 入 選 牧野 光伸 (浜松市)
- 入 選 本間 純枝 (金谷町)
- 入 選 木下 安雄 (浜北市)
- 入 選 光飛田悦子 (金谷町)
- 入 選 石川 勝男 (浅羽町)

二月二十日に小國神社拝殿において受賞者の正式参拝が斎行され、引き続き表彰式が開催されました。今回も三月一日から三月十三日までの期間、森町文化会館一階の壁画前にて入賞作品を含めた五十点の作品を展示した写真展を開催いたしました。また、本年は御鎮座一四五〇年を記念して写真集を発刊する予定です。尚、開催にあたりご協力くださいました各後援・協賛者の皆様方に改めて厚く御礼申し上げます。



富田 皐 「秋の小國神社」



渡辺 辰己 「錦秋の杜」



松浦 昌 「七五三成長願う」



鈴木 康之 「朝光に映える」

# まつり歳時記

三月〜六月

## 三月

### 弥生やよい

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
- 十七日 鉦執社例祭 (午後一時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前九時)

## 四月

### 卯月うづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 二三日 さくら祭 (午前十時半)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 杉祭 (午前九時)
- 八日 全國一宮等宣殿社例祭 (午前十時)
- 九日 勸学祭 (午前十一時)
- 十日 甲子祭 (午前九時)
- 十四日 垢籬祭 (午前十一時)
- 十四日 舞揃 (午後二時)
- 十六日 献詠祭 (午前九時)
- 十六日 氏子入り奉生呂祭 (午後二時)
- 十六日 十二段舞楽奉奏 (午後二時)
- 十七日 前日祭 (午前十時)
- 十七日 十二段舞楽奉奏 (午前十一時)
- 十七日 神幸祭 (午後一時)
- 十八日 御鎮座一四五〇年記念例祭 (午前十時)

## 五月

### 皐月さつき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 五日 こども祭 (午前十時)
- 六日 本宮山青葉祭 (午前十一時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)

## 六月

### 水無月みなづき

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 一日 花鬘園開園奉告祭 (午前九時)
- 四日 花菖浦観賞祭 (午前十時半)
- 五日 花しょうぶまつり (午前十時半)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 九日 甲子祭 (午前九時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十一日 御田植祭 (午前十一時)
- 三十日 夏越の大祓式 (午後三時)



しゃくなげ

### 師走の大祓式齋行

十二月三十一日の大晦日、午後三時より師走(年越)の大祓式を齋行致しました。

大祓とは、日々の生活の中で知らず知らずのうちに心身についた罪やけがれ・不浄なものを身代りとなる人形に移し、清らかな姿に立ち返る事を願い、川に流して祓い清める神事のことです。当日は多勢の方がご参列され、更に本年は昨年を上まわるお申し込みをいただき、生憎の天候ではありましたが滞ることなく執り行いました。

この神事は、十二月と六月の晦日、年に二回行っており、当日ご参列いただければご二緒にお祓いを致します。

尚、大祓の人形は一ヶ月前より、ご祈禱をお受けいただいた方々に、または社頭にてお頒け致しております。ご希望の方は当社までお問い合わせ下さい。



師走の大祓式 (12月31日)

### 古代の森シリーズ 13

#### 大杉

大杉は樹齢一〇〇〇年以上の御神木で、昭和四十七年の台風により倒れるまで御本殿の北側にありました。かつては、境内の中でも唯一の老杉として慶長五年の「小國神社境内絵地図」に記され、その根元には末社の白山社がお祀りされていました。現在は、大杉の根元の部分が参拝者休憩所の南側に奉安されています。

大杉は「願掛杉」「福寿杉」と称され、いまなお木霊が宿る御神木として多くの参拝者がお参りされます。初夏には大杉の雨覆いの屋根に白・ピンクの石斛(長生蘭)が可憐に咲き、風物詩として親しまれています。



大杉

### 祭祀舞研修会の実施

恒例祭典及び祈禱祭、また、神前結婚式におきまして、巫女により祭祀舞を奉奏いたします。主には豊栄舞を奉奏し、毎月十八日に斎行の月次祭では浦安舞を奉奏いたします。

これらの祭祀舞は、当社では代々巫女から巫女へ伝えられてきておりますが、歳月とともに個々の癖なども現れ、正確さが失われつつありました。

そこで、基本からおさらいするため、昨年十二月二日と三日の二日間にあたり研修会を行いました。実施にあたり静岡縣護國神社の職員でいらつしやいます静岡県神社庁祭祀舞講師の稲葉悦子様にご足労を願ひ、丁寧にご教授いただきました。

最後になりましたが、この度、ご理解ご協力を賜りました二橋宮司様を始め稲葉講師先生、また静岡縣護國神社の皆様深く感謝申し上げます。



豊栄舞の研修

### 稚児行列奉仕者の募集

四月十七日(日)午後二時より神幸祭(おわたり)を斎行し、勅使行列・稚児行列を執り行います。

つきましては、本年も行列に参加される稚児を募集しておりますので、ご希望の方は当社までご連絡ください。

電話 〇五三八一八九一七三〇二  
振興会 稚児行列係

#### 募集要項

- 一、対象者 小学校三年生位までの男女
- 一、参加費 五、〇〇〇円
- 一、募集人員 先着二十名
- 一、申込締切 四月八日



平成16年4月のお稚児さん

### 敬神婦人会の福豆袋入れ奉仕

平成十七年一月二十一日(金)午前九時、敬神婦人会の小池まさ子会長をはじめ役員の皆様方により、節分祭に使う福豆の袋入れ奉仕をしていただきました。一五〇キロの豆は毎年の手慣れた作業により、昼過ぎには袋入れが終了いたしました。



敬神婦人会・福豆袋入れ奉仕

### 梅の開花

立春を過ぎますと境内には一段と梅の香りがします。大宝殿の周辺、アスレチック場内でもお楽しみいただけますが、宮ノ谷池の斜面の梅は自然の中にある風情があり一味が違った観賞が楽しめます。



宮ノ谷池の梅園

## 命 名

平成十六年十二月一日

平成十七年一月三十一日

- |       |     |        |      |
|-------|-----|--------|------|
| 高曾根 脩 | 浅羽町 | 村松 勇吹  | 森 羽町 |
| 曾根 詩和 | 袋井市 | 大須賀海翔  | 浅羽町  |
| 横道 春奈 | 袋井市 | 鈴木 佑奈  | 森 羽町 |
| 秋山奈々帆 | 袋井市 | 大下 蓮斗  | 森 羽町 |
| 山下 朔也 | 掛川市 | 柴田 桂汰  | 掛川市  |
| 中村 匠寿 | 掛川市 | 山崎 真那  | 掛川市  |
| 稲谷 潤春 | 磐田市 | 杉村 優   | 掛川市  |
| 森下陽乃莉 | 浜岡町 | 鈴木垂 理沙 | 掛川市  |
| 今井 一貴 | 豊岡村 | 山城 達哉  | 掛川市  |

- |                         |     |        |     |
|-------------------------|-----|--------|-----|
| 高田 琉希                   | 袋井市 | 大石 伊吹  | 袋井市 |
| 太田 京花                   | 袋井市 | 神山 至温  | 袋井市 |
| 望月 未尋                   | 大東町 | 安間 海斗  | 浅羽町 |
| 山本 翔太                   | 掛川市 | 鈴木 涼平  | 浅羽町 |
| 渡邊 湊太                   | 森野町 | 丸尾 渉   | 森野町 |
| 鈴木 琴音                   | 袋井市 | 須田 壮一郎 | 袋井市 |
| 〇当社では、お子様の命名を申し受けております。 | 掛川市 |        |     |

「小國の杜・点描」

次郎坊延胡索(じろうぼうえんごさく)

〔ケシ科キケマン属 多年草〕

茎は繊細で高さ二〇cm。スマレを太郎坊、本種を次郎坊と呼ぶ方言からの名で、エンゴサクとはこの種の総称である漢名によります。子供がこれらの花をからませて引っぱり遊んだことからスモトリグサとの名もあります。当社では宝蔵南側で見ることが出来ます。

沈丁花(じんちょうげ)

〔シンチヨウゲ科シンチヨウゲ属 常緑低木〕

花の芳香を沈香(しんかう)と丁字(ちやうじ)の香りにたとえた名で、端香・千里香とも称えられます。室町時代にその根を薬用にするために渡来し、鑑賞用としても広く親しまれるようになってきました。



次郎坊延胡索(じろうぼうえんごさく)



沈丁花(じんちょうげ)

うになりました。甘い生活・栄光・不滅という花言葉があり、梅や水仙とともに新春の香り高い花の一つです。

木瓜(ぼけ)

〔バラ科ボケ属 落葉低木〕

三〜四月に紅や白・しほり等の花をつけ、多くの園芸品種があります。夏過ぎに楕円形の果実をつけ、室内に置いて香気を楽しんだり、砂糖煮や果実酒にする。疲労回復に効果があるといわれています。和名は中国の木瓜の字音が転じたもので、春の暖かさを伝える花なので報春花の別称もあります。



木瓜(ぼけ)

蔞(ふき)

〔キク科フキ属 多年草〕

葉柄は煮物や塩漬、花茎(フキノトウ)は焼いたりフキ味噌等にして早春の味として珍重されています。特有のほろ苦さには消化・食欲促進作用があり、セキ止めやタン切り等にも薬効があるといわれます。公正な裁きという花言葉があらわれています。



蔞(ふき)

宮川の新緑

四月の中旬頃になりますと宮川沿の紅葉の新芽が一斉に芽吹きます。やわらかい葉が春風により揺れる様は、清々しい感があります。



宮川の新緑

編集後記

○「玉垂」第十三号をお届けいたします。今号には崇徳奉賛会長にご就任されました鈴木覺様より玉稿を頂戴いたしました。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

○秋の写真コンテストも三回目を迎え、次回の準備へと入りかけております。応募数が多く、なかなか入選するのに難しくなっておりますが、是非とも今年も多数の作品をお寄せください。

表紙写真について

平成十七年二月九日(水)午前十一時、初甲子祭の特別神事である「御本殿廻り」をされる甲子議員の皆様を撮影いたしました。毎年一日しかできない神事に多くの方がお参りになりました。

平成十七年三月一日 第十三号  
「玉垂」(たまだれ)  
題字揮毫 神社本廳前総長 工藤 伊豆  
発行 小國神社社務所  
郵便番号 四三七一〇二二六  
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一  
電話番号 〇五三八(八九)七三〇二  
FAX 〇五三八(八九)七三六七  
印刷 (株)アザインオフィス エム・エス・シー